

# 豊かな個性を単科で

## 第1期 創設期～設置をめぐる

小樽商科大学は、全国第5番目(東京・神戸・山口・長崎)の官立高等商業学校として、1910年に設置されました。設置にあたっては、地元小樽住民の一丸となつての活動が大きな支援となりました。「実践工場」を設置するなどして、商業実学の教育に成果をあげました。

## 第2期 種蒔期～外国人教師

この時期には、今日にも受け継がれている様々な部活動・ゼミナール活動が始められました。また、商業実務教育のほか、語学教育にも力を注いでいました。当時としては珍しい外国人教師も数多く教壇に立ち、「北の外語大」の伝統を築く礎となりました。

## 第3期 再編期 ～大学への改組

1946年9月の緑丘会総会で満場一致で可決された小樽高商の昇格案は、翌10月に小樽市議会での「建議案」可決・同10月の「小樽経専昇格小樽商大設置市民大会」に繋がりました。

1947年頃から明らかにされつつあった文部省の「一府県一大学」の整理統合の意向がありましたが、本学では、「単独昇格」を目指した運動が行われまし

た。8月 GHQの大学教育課長W.C.イー  
ルズ氏の視察の際には、単独昇格の必要性と地元の世論を強く訴えました。GHQは地元世論を汲み、「小樽経専の豊かな個性を単科で伸ばすべきである」として本学の単独昇格を認めました。そして1948年10月、全国唯一の社会科学系単科大学としての本学の発足が、正式決定されました。

1949年5月31日 国立学校設置法の公布を受け、6月15日に第1回入学試験を実施。そして7月7日、158名の入学生を迎え、開学式が挙行されました(以後「創立記念日」とする)。

さらに1952年には、勤労青年への門戸開放を目的として短期大学部が設置されました。国立大学での夜間部の併設は極めて稀であったため、道内から大きな期待と好評をもって迎えられました。また1958年には、「緑丘講座」が開始されています。本講座は、同窓会有志が一講座に必要な経費を負担して実施されたもので、講座には毎回寄付者の名称が付けられました。この講座は、本学の教科にとらわれず一流の学者や文化人の講義

を聞くことができるというものでした。(1959年には、緑丘講座として、伊藤整氏の文学論特別講義が開講されました。)

この頃、本学においても学生運動がみられるようになりました。1960年には安保条約改定反対を要求する学生が5月以降 数回に渡りストライキとデモを行い、6月には一時、授業不可能な状態に陥りました。しかし条約締結後は平穩に戻り、本学では学生運動は根をおろすには至りませんでした。ここに、本学における学生運動の特殊性を見ることができます。

## 第4期 変革期 ～21世紀を迎えて

本学は国立大学唯一の社会科学系単



## 商大90年のあゆみ

11946(S21)年 9月 緑丘会総会で大学昇格 決議  
10月 小樽市議会での大学昇格 決議  
小樽経専昇格・小樽商科大学設置市民大会  
1947(S22)年 4月 男女共学化女子学生(3名)入学  
1948(S23)年 10月 本学の単独昇格内定  
1949(S24)年 5月 小樽商科大学 設置 7月 開学式  
1950(S25)年 6月 朝鮮戦争 はじまる  
11月 第1回大学祭(現「緑丘祭」)  
1951(S26)年 サンフランシスコ講和条約 締結  
1952(S27)年 3月 短期大学部 併設(1996年 廃止)  
1953(S28)年 商業教員養成課程 設置  
1958(S33)年 「緑丘講座」発足  
1964(S39)年 10月 東京オリンピック  
11月 計算機センター 設置

1969(S44)年 (学園紛争の激化)  
4月 入学式中止 5月 管理棟封鎖  
7月 アポロ11号月面着陸  
8月 緑丘戦没者記念塔 建立  
1971(S46)年 大学院修士課程 設置  
1981(S56)年 12月 旧校舎の解体(創立以来の建物が全てなくなる)  
1989(H1)年 ベルリンの壁崩壊  
1991(H3)年 10月 現在の4学科に改組 言語センター 設置  
1997(H9)年 2月 国際交流センター 設置  
5月 札幌サテライト 開設  
1998(H10)年 7月 札幌サテライト、スペースを拡充  
1998(H10)年 10月 シンボルマーク 制定  
1999(H11)年 4月 ビジネス創造センター 設置  
2000(H12)年 4月 ビジネス創造センターの省令施設化